

## 基調報告

認定 NPO 法人ファミリーハウスは 1991 年創立以来 27 年、NPO 法人格取得以来 19 年、認定 NPO 法人取得から 8 年が経過いたしました。この間活動を支えてくださった会員の皆様をはじめ、多くの支援者のご理解、ご協力に心より御礼申し上げます。

ファミリーハウスは 2017 年度、10 施設 22 室を運営し、601 家族、延べ 7,999 人の方々にご利用いただきました。ハウスを支えるボランティア、スタッフの皆様のご努力に感謝申し上げます。

2017 年度は、ファミリーハウスの活動の質を深める年となりました。

第一に、2017 年 5 月、かちどき橋のおうちを 1 室増室。さらに 2018 年 2 月にひまわりのおうちを 1 室広い部屋に移動しました。これにより、利用者により快適な環境を提供することができました。

第二に、今年も多数のボランティアの協力を得ることができました。定期的にハウスを支えていただくボランティアは、登録者数 332 名。ハウスキーピングなどの定期活動は合計で 596 回、延べ 1,573 名に支えられました。企業社会貢献で行われる 1 日ボランティアは、合計 77 回、1,261 名が参加しました。このご協力のおかげで、ハウスの安全衛生が守られ、ハウスがより豊かになるような活動となりました。

第三に、相談機能の強化です。前年度に引き続き、病棟、専門家、関係団体との連携を図り、専門性を持った相談員が患者・家族と面談を重ねることで、日常生活をおくることにより細かい配慮が必要な重症な患者さんを受け入れることができました。同時に、内部スタッフが専門家と毎週ケースカンファレンスを開催することで、利用者へチームで丁寧な対応ができるようこころがけました。

第四として、専門家との連携が挙げられます。看護学生の研修の受け入れを始めとして、小児看護学会や日本造血細胞移植学会での発表の機会を得ました。また、上智大学久田満教授の支援をいただき、コミュニティ心理学の観点からファミリーハウスの行っているコミュニティケアを言語化し、小冊子にまとめました。

その他、一般財団法人たんぽぽの家に招聘され、「ケアとテクノロジー」「ケアする人のケアセミナー」での講演のほか、13 の企業で講演をおこないました。広報活動として新しいDVDの作成、チャリティコンサートの開催、東京マラソン 2018 へのチャリティ団体としての参加をしました。「ファミリーハウスは“ひと”で成り立ち、“ひと”なくしてこの活動は存続しない」そのままに、たくさんのボランティアに支えられました。

この 1 年間活動を支えてくださいました皆様方に御礼申し上げますとともに、今後ともこの活動にご支援ご協力賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

理事長 江口 八千代

## 2017 年度事業報告

### 1. ハウス運営事業

#### (1) ハウス運営事業

2018 年 3 月末の施設数は、10 施設 22 部屋。利用実績は、601 家族（7,999 人）延べ 5,354 日。本法人活動開始以来の利用実績累計は、18,184 家族、延べ 161,744 日。

#### ① 『かちどき橋のおうち（中央区）』で拠点として 1 室増室

2017 年 5 月、公益財団法人日本財団の助成により、かちどき橋のおうちを 1 室増室した。中央区のマンシ

オン内にあるハウスは、国立がん研究センターや聖路加国際病院へも徒歩圏。医療的ケアが必要な患児も含め、家族で過ごすことができるハウスのニーズは高まっている。増室したハウスは、地域コミュニティがつながる拠点機能を目指すとともに、特にソフト面を重視し、専門家による利用者への面談、必要に応じて病院と連携して利用者を迎える取り組みを行った。

- ② 『ひまわりのおうち（府中市）』同じ建物内で部屋移動  
篤志家より提供を受け運営している「ひまわりのおうち（府中市／2室）」の同建物内に広い部屋の空きが出たため、ハウスオーナーの申し出で広い部屋への移動が実現した。徒歩圏内にある循環器専門病院の榊原記念病院には、生後間もない患児も手術のため遠方から治療にやってくる。特に手術後 ICUの間は、近距離での待機が必要な家族など、急な利用希望にもゆったりとしたハウスで滞在いただけるようになった。

## （2）安全衛生について

- ① 寝具リネンのクリーニング  
各ハウスの寝具リネン（布団カバー・シーツ・枕カバー）を毎月2回、業者とリネンボランティアの協力を得て交換。常時、清潔なリネンを提供することが出来た。
- ② リース寝具の提供  
本年度も引き続き、一般財団法人日本メイスン財団の助成により、良質なリース寝具を提供することが出来た。寝具一式（枕、敷布団、ベッドパット、厚・薄掛布団）は年4回洗浄されたものと定期的に交換することが出来た。交換時には定期・企業ボランティアの協力を得て梱包や点検を行い、利用者への良好な衛生環境を維持することが出来た。
- ③ 洗濯機槽とエアコンフィルター清掃  
毎月1回、各ハウス洗濯機槽、エアコンフィルターを清掃し、治療中の患児も安心して利用できる衛生的な環境維持に努めた。ハウスボランティアの地道な活動に支えられて、衛生を保つことが出来た。
- ④ ハウスの大掃除  
日常の清掃は、利用者と定期的なハウスボランティア、スタッフで行い、衛生に努めているが、季節ごとに企業ボランティアを募って大掃除を行い、ハウス内の安全衛生の一層の向上に努めた。2017年度は、延べ35回の大掃除を行い、合計314名にご協力をいただいた。  
大掃除の前にはDVDや資料などで活動を紹介し、活動の趣旨、清掃の必要性を理解いただいた上で活動を行っている。こうしたスポットの活動後に、企業の立場を離れて個人としてイベント時のボランティアへの参加やボランティア登録をして定期活動に参加くださる方もおり、大掃除の活動がハウス活動の支援者を増やすきっかけになっている。
- ⑤ 専門家によるハウスクリーニング  
昨年に引き続き、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の助成を得て、今年も専門家によるハウスクリーニングを9施設で実施した。エアコン、洗濯機、浴室など専門技術の必要な箇所やベランダなど日常の清掃では出来ない箇所を中心に清掃を行った。  
また、ハウスクリーニングの基本的な考え方や心構え、各ハウスに共通する基準を共有するため、「病気の子どもと家族のために滞在施設における清掃ガイドライン」を作成。利用者の安心と安全への信頼を高め、ボランティアの活動のよりどころとなるガイドラインとなった。

## （3）ハウス設備の充実

ファミリーハウスは、安いホテルではなく、利用者にとって「病院近くのもうひとつのわが家」を運営することをミッションとしている。特に近年は、重篤な子ども達の利用も多く、ハウスが家族とのかけがえのない時間を過ごす場所となっている。そのため、ハウスの安全や衛生をはじめ、各ご家族の状況とそれぞれのニーズに添った支援を募り、設備充実に努めた。

- ① 本・DVD・おもちゃ  
個人や企業から、絵本・DVDソフト・おもちゃなど多くの寄贈があった。セガサミーホールディングス株式会社からは、子どもたちに人気のキャラクターグッズやベッドの上でも楽しむことができる安全なおもちゃのご寄付をいただき、患児をはじめ、きょうだい児、ご家族に大変喜ばれた。届いた本やおもちゃは、ボランティアで定期的に除菌を行い清潔な状態で利用していただいた。
- ② 食品・生活用品など  
味の素株式会社、花王株式会社などの企業と、通信の呼びかけに応じて個人から食品や日用品の寄付が多数あった。また、見学やボランティア活動でハウスを訪れた個人・企業社員から利用者のニーズに添った物品寄付が多く届いた。それらの物品寄付は、ボランティアの協力を得て各ハウスに配備し、闘病中の家族の経済的負担軽減につながった。
- ③ 利用者への季節の贈り物  
企業、個人のボランティアの協力を得て、母の日やクリスマスなどに季節の品を贈ることができた。また、クリスマス時期は、子ども達が大好きな本やおもちゃ、ひざかけや靴下、クリスマスのお菓子などが個人・企業・団体などからたくさん届き、ボランティアの協力を得てラッピングを行った。患児の年齢や性別、好みによりプレゼントを仕分け好きなものを自由に選べるよう準備し、大変喜ばれた。
- ④ PC・電化製品など  
個人や協力企業より、掃除機、加湿器などをはじめとした家電製品等の備品の寄付及び助成があり、ハウスの環境をより良くすることができた。
- ⑤ 防災用品  
災害時に必要な防災用品や非常用食品を滞在想定人数にあわせてハウスに常備している。備蓄食や水は「ローリングストック」という普段消費する食品も備蓄食としてカウントする方式で管理。この方式は鮮度を保ちながら日常に近い食生活を送ることができ、定期的に在庫を確認することで消費期限切れを防ぐことができた。
- ⑥ 治療中の患児を迎えるための設備の充実  
昨年度は余丁町のおうちに1台、うさぎさんのおうちに1台だった介護用リクライニングベッドをかちどき橋のおうちに2台追加、合計4台に増やし充実させた。

#### (4) ボランティア関係報告

- ① ボランティア説明会  
事務局において、延べ11回のボランティア説明会を開催した。1年間の新規ボランティア登録者数は19名。ボランティア説明会では、まずファミリーハウスの活動を理解いただくこと、ボランティア希望者と運営側のニーズがマッチングする事の二点に重点を置いている。2018年3月現在、登録ボランティアは332名となった。
- ② ハウスを支えるボランティア活動  
運営する全てのハウスにおいて、ボランティアチームが定期的に活動することが出来た。ハウスキーピング(290回、延べ1309名)、リネン交換(192回、延べ264名)、巡回活動(24回)を定期的に実施した他、アイデアやノウハウについて、ハウスを越えての共有も進んだ。定期のボランティアを核に、企業のワンデイボランティアとの協働も進み、活動を支える輪がさらに広がった。

【ルーティン】 ※ハウスキーピング、リネン交換、巡回活動の合計

ハウス名	延べ活動回数	延べ活動人数

かんがるーの家	36	80
おさかなの家	72	120
ひつじさんのおうち	73	211
ぞうさんのおうち	36	74
ちいさいおうち	105	538
ひまわりのおうち	36	75
うさぎさん・かちどき橋のおうち	74	327
余丁町のおうち	74	148
合計	596	1573

企業社員のボランティアとの協働は、2017年度は、合計77回1689名が活動に参加した。うちハウスで活動した社員は、55回428名。ファミリーハウスが企業に出向くなどしてプログラムを提供した出張ボランティアは、22回延べ1261名が参加。たくさんの企業社員に活動を紹介し、協力いただく機会を得た。そのほか、社内で紙ごみパックづくり、手作り品の作成などを継続して行ったださる企業もあった。

【スポット】

活動場所	延べ活動回数	延べ活動人数
ハウスでの活動	55	428
出張ボランティア	22	1261

- ③ イベントを支えるボランティア活動  
準備から当日作業、チャリティバザー一品などの小物作りにはいたるまで、多くのボランティアに支えられ、以下のイベントを開催することが出来た。
- 2017年6月4日(日) ゴスペル東京・チャリティコンサート ブース出展  
2017年10月27日(金) Jazz Night@魚籃寺(おさかなの家・港区)  
2018年2月22日(木)～24日(土) 東京マラソン2018EXPO ブース出展  
2018年2月25日(日) 東京マラソン2018
- ④ 自宅で作る手仕事ボランティア活動  
ハウスに必要なぞうきん、座布団カバー、ハウスへの物品運搬用のバッグ、刺し子のふきん、ボランティア用エプロンなどを、自宅で作る協力をいただいた。
- ⑤ IT関係ボランティア  
各ハウスに設置されているパソコンメンテナンスを月1回、ボランティアの協力により行った。PCボランティアのメンバーは、合計11名。
- ⑥ 事務関係ボランティア  
経理処理のチェック、労務管理、会員管理、利用率の算出、お礼状の発送、ファミリーハウス通信の編集・発送、アニュアルレポートの編集、啓発ポスターのデザイン・作成、各種デザイン関係の支援など、ボランティアの協力を得て行うことができた。
- ⑦ ハウスへの定期的な物品運搬ボランティア  
企業又は個人の方からご寄付いただいた品物(生活用品、食料品等)をボランティアの協力を得ながら定期活動やハウス訪問時に届けた。さらに、1か月に1～2回、車での運搬ボランティアの協力を得て、寄

付された物品がすぐに利用者のもとへ届くようにハウスと事務局間において定期的に物品運搬を行っている。

各ハウスでは毎月管理表で在庫をチェックすることで、事務局ではより必要なハウスと利用者へ物品を届けることができた。

## (5) 内部研修及びミーティング

### ① ハウスボランティアミーティング

各ハウスとも定期的にボランティアミーティングを開催し、多いハウスでは活動毎に振り返り、意見交換の時間を設けて話し合った。ハウスの現状や課題、そのほか活動の中でのアイデア等を共有し、今後のハウスのために行っていきたいことなどが話し合われた。

### ② プロジェクト進捗ミーティング

事務局において、毎週金曜日にプロジェクトの進捗ミーティングを行った。  
各プロジェクト担当者を中心に、情報共有を行い、連携してプロジェクトを進めることができた。

### ③ ケースカンファレンス

事務局において、毎週金曜日に利用者についてのケースカンファレンスを行った。  
受付担当スタッフ、相談員（看護師）、ハウス担当スタッフを中心に、情報共有、検討事項の相談などを行った。

### ④ スタッフの研修

2017年6月2日（金）スタッフ研修（ワークショップ／株式会社タントビーバ板谷和代先生）  
2017年11月10日（金）、11月24日（金）、12月1日（金）利用者支援の専門性を体系化するための内部セッション（上智大学総合人間科学部心理学科 教授 久田満先生）

## (6) その他

### ① 企業の新入社員及び内定者研修受け入れ

2017年4月11日（火）ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社（社員117名参加）  
2017年5月9日（火）～11日（木）日本光電工業株式会社（社員12名参加）  
2017年7月14日（金）シティグループ（社員11名参加）  
2017年8月20日（日）ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社（社員45名参加）

### ② 学生の研修受け入れ

2017年7月5日（水）東京慈恵会医科大学医学部看護学科大学院生1名

## 2. 広報

### (1) ファミリーハウス通信の発行

2016年度も毎号ごとに編集会議を行い、年4回の発行を行った。質の高い紙面作りを目指し、昨年に引き続きプロボノの協力を得て工夫と改善を行った。誌面を通じ、会員に対して活動への親しみやすさを伝えるとともに、寄付・ボランティアへの活動参加に繋がるような制作に努めた。

また、正会員、後援会員、協力企業、関係団体、医療看護福祉系大学、専門職団体、医療機関、保健所等へ配布し、4回合計で16,646部発送した。（前年発送部数：19,730部）

通信の編集・発送作業はボランティアの協力によって行われており、企業ボランティアからの協力も多数得て発送した。

## (2) 活動紹介 DVD 制作

公益財団法人 JKA の助成を得て、ファミリーハウスの理念や活動を深く理解していただくために、紹介動画のリニューアル作成をした。

## (3) ハウス見学受け入れ

各ハウスで、見学者（個人、学生、行政、企業、医療従事者、研究者）を受け入れた。また、勝どきエリア（うさぎさんのお家、かちどき橋のおうち）では、最新のハウスの例として、文部科学省、企業、医療関係者をはじめ、多くの見学者に紹介し、病院から近いハウスを必要とする患児と家族の状況やハウスのニーズを伝えることができた。

## (4) ファミそ作り

料理研究家脇雅世ご夫妻のご協力により、『ファミそ～ファミリーハウスのための味噌～』作りが 4 年目を迎えた。オリジナルラベルのデータ作成は、前年に引き続き、ホスピタリティデザインを手がけるプロボノの寺澤知也氏にご協力いただいた。支援企業やチャリティイベント等で、ファミリーハウスを知ってもらう大きなツールのひとつとなっている。ファミその完成を楽しみにしている方も多く、次年度も引き続き作成予定。

## (5) ホームページ

2017 年 4 月 1 日に新サイトに移行し、スタッフが更新作業を直接できるようになった。2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日の期間のページビューは 75,271 件であった（新サイトへの移行に伴い、アクセス数の集計方法も変更になった）。DVD の更新にあわせて、ホームページに新しいキャッチコピーを表示させたり、イメージ動画を掲載したりした。

## (6) 学会・講演等

- ① 2017 年 6 月 29 日、ちよだボランティアセンター主催の「ボランティア紹介 & 相談デー」（東京都千代田区）に参加。企業勤務者のボランティア参加促進を目的にしたイベントで、IT 企業社員であるパソコンボランティアとともに講演した。
- ② 2017 年 8 月 19 日（土）に国立京都国際会館で開催された日本小児看護学会において、「慢性疾病をもつ子どもと家族のための滞在施設との連携について考えよう！ ～病院と在宅をつなぐ中間施設としての患者家族滞在施設の役割と支援～」のテーマセッション（発表者：永吉美智枝、江口八千代、岩瀬貴美子、植田洋子、小山健太、矢郷哲志、瀧田浩平、高橋衣）と、前年度に実施した「2016 年度日本財団助成事業現在の小児医療における患者家族滞在施設に対するニーズの検討と理想のハウス実現に向けた基盤の構築事業報告書」のポスター発表を行った。看護大学教員との協働によるもので、テーマセッションでは、小児領域の看護師、教員、研究者など約 30 名が参加した。
- ③ 2018 年 1 月 13 日、一般財団法人たんぼぼの家、一般財団法人住友生命福祉文化財団共催の「ケアとテクノロジー」（東京都渋谷区）にて、ファミリーハウスの〈寄り添うしくみづくり〉について江口理事長より講演を行った。
- ④ 2018 年 2 月 10 日、一般財団法人たんぼぼの家、一般財団法人住友生命福祉文化財団共催の「ケアする人のケアセミナー」（熊本市）の分科会〈ケアする家族をどう支えるか〉にて江口理事長が発表を行った。
- ⑤ 2018 年 2 月 20 日、日本造血細胞移植学会（北海道札幌市）のスイーツセミナーにて江口理事長より活動紹介の講演を行った。

- ⑥ その他、武田薬品工業株式会社、住友生命保険相互会社、エドワーズライフサイエンス株式会社、三和ホールディングス株式会社、ジブラルタ生命保険株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社等の企業で社員向けに合計 13 回の講演を行なった。

## (7) イベント

- ① チャリティコンサートにてブース出展  
2017年6月4日(土)、ゴスペル東京チャリティコンサートにて、ボランティアの協力を得てブース出展を行った。当日は多くの来場者がブースを訪れ、募金などの支援をいただいた。またコンサート収益の一部が寄付となった。
- ② ぶたネコチャリティコンサート  
MS&AD インシュアランス グループの社会貢献活動団体 (MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ) が主催するチャリティコンサートで、2000 年から継続的に支援いただいている。年に数回、社屋ビルのロビーにて東京藝術大学学生、卒業生などによるミニコンサートが開催され、今年も社員の方の参加費が寄付された。ミニコンサート後には、参加者への活動報告と継続支援の御礼を伝えた。
- ③ Jazz Night@魚籃寺の開催  
2017年10月27日(金)、NPO グローヴィル主催、コスモ石油株式会社の協賛で、魚籃寺の本堂にて通算 12 回目となるチャリティジャズコンサートが開催された。また同日、おさかなの家にてオープンハウスを行った。
- ④ 東京マラソン 2018 チャリティ参加  
東京マラソン 2018 チャリティにおいて寄付先団体の 1 つとして選ばれ、2018 年 2 月 22 日 (木) ~24 日 (土)、東京ビッグサイトでの東京マラソン EXP02018 にブースを出展した。3 日間で 235 名のチャリティランナーにチャリティ T シャツやファミリーハウスオリジナルのゼッケン等の記念品をお渡し、またチャリティ参加への感謝を伝えた。2 月 25 日 (日) の大会当日は、靖国通りそばの事務局前にて約 25 名が路上からチャリティランナーへ声援を送った。また、京橋の東京コンベンションセンターに設けられたチャリティラウンジには、ファミリーハウスのチャリティランナー専用のスペースを設置。来訪されたランナー約 140 名にボランティアが作成した記念のタオルくまを差し上げたり、記念写真の撮影をして感謝の意を伝えた。事前準備から大会当日まで、協力いただいたボランティアは計 100 名以上。「理想の家」実現に向け、さまざまな形で多くの方に支援いただいた。

## 3. 援助及び支援活動

### (1) 相談事業

- ① 受付・電話相談  
電話の総数は、3,849 件。 電話相談問合せは、252 件。
- ② 訪問による相談  
利用者訪問件数は、388 件。看護師、相談員などの専門職による訪問相談を行った。
- ③ 病院との連携  
利用者を受け入れる際に、必要に応じ病院との連携を行った。医師、病棟看護師、SWなどの医療従事者ととも利用者の安全な滞在を確保した。また、長期利用者の事例について、医療従事者との振り返りを行った。理想の家については、国立がん研究センター中央病院、国立成育医療研究センターと話し合いを行った。

## (2) 援助支援活動

- ① 利用者助成基金  
利用者支払困難者に対し、公益財団法人森村豊明会より利用者助成積立基金を得て、減免を行った。
- ② 公益財団法人 JKA  
「広報活動費」の一部（滞在施設理解促進のための動画・DVD 制作事業）について、公益財団法人 JKA「オートレース公益資金」による補助金を受けて実施した。
- ③ 日本財団助成事業  
「ハウス運営・相談事業費」の一部（医療的ケアに対応した地域連携ハブ拠点のモデルづくり事業）について、日本財団による助成を受けて実施した。医療従事者と患者家族滞在施設の連携による支援モデル構築のため拠点を整備し、相談事業を実施した。また、支援モデル構築のための調査を行い、結果を報告書にまとめた。
- ④ 独立行政法人福祉医療機構（WAM）事業  
独立行政法人福祉医療機構の平成 29 年度社会福祉振興助成事業から助成を受け、「患者家族滞在施設の相談機能強化事業」に取り組んだ。本事業で構築した相談体制は、受付スタッフによるニーズ把握、相談員による訪問相談、ハウススタッフ・ボランティアによるコミュニティ（つながり）を感じられる場であった。また、事業の成果を、パンフレットにまとめ、全国約 3000 ヶ所の病院・大学・保健所等に配布するとともに、ホームページにも掲載した。
- ⑤ ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会  
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の助成を得て助成プログラム（3 ヶ年）の 3 年目事業を実施した。過去 2 年間に積み上げた滞在施設における清掃（安全衛生）のための視点やノウハウをもとに、ガイドラインを策定し、報告書にまとめた。

## 4. その他

### (1) 第 18 回 JHHH ネットワーク会議の開催

2017 年 10 月 22 日、愛媛県立中央病院にて、特定非営利活動法人ラ・ファミリエと当法人の主催により、全国のハウス運営者 46 名が集まり開催。ラ・ファミリエ理事長で愛媛大学大学院医学系研究科教授の檜垣高史氏及び公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン事務局長の木村恵美子氏が講演を行った。また、午後は分科会を実施。患者家族滞在施設を取り巻く法律や、病院との連携・ハウス間の連携等のテーマで、意見交換や話し合いを行った。

なお会議前日（21 日）には、ラ・ファミリエが運営する滞在施設「ファミリーハウスあい」とジョブサロン、及び愛媛県立中央病院小児科病棟を見学した。